

日向市立美々津小学校の学力向上への取組

1 学校の概要

学校の教育目標 「豊かな心を持ち、確かな判断力とたくましい実践力をもった児童」

本校は、日向市南部を流れる耳川と石並川によって育まれた台地に位置し、明治7年創立という歴史と伝統を有する学校である。校区内に、昔ながらの町並みを保存しながら、地域の活性化に向けて住民一体となった運動を展開している。

保護者はもちろんのこと、地域住民の学校に対する期待は大きい。平成9年度の学社融合モデル指定研究校としての取組は、地域住民の熱意と協力に支えられて成果をあげ、現在も継続している。

児童数は年々減少傾向にあり、平成13～15年度までは第3・4学年、平成16年度は第5・6学年に複式学級を有していたが、本年度は複式学級が解消となり、各学年6～13名の単式学級編成になっている。

○ 学年別児童数（平成17年10月1日現在）

学 年	1	2	3	4	5	6	特殊	合計
人 数	11	13	11	9	12	6	1	63

2 児童生徒の実態

本校の児童は明るく素直であり、様々な学習活動に対して、興味・関心をもって意欲的に取り組もうとする姿が見受けられる。また、豊かな自然や多くの地域素材に恵まれた学習環境の中で、地域の人々との交流を積極的に図りながら、少しずつ自己表現力やコミュニケーション能力の高まりも見られるようになった。

このような実態の中で、教科等の授業においても、少人数学級のよさを生かし、個に応じたきめ細かな学習指導を展開するとともに、生活科、体育科、総合的な学習の時間においては、単元によって2学年合同の授業を実施するなど、各教科の特性を考慮しながら、指導形態や指導方法の工夫改善を図ってきた。

本年度5月に実施（2～4年、6年）した学力検査（NRT）の結果をしてみると、国語科では、ほとんどの学年で、各領域における正答率や国語科全体の偏差値平均において、前年度の分析結果より伸びが見られた。ただ、「書くこと」「読むこと」の領域については全体的に正答率が低い傾向にあるので、本年度の課題である。算数科では、学年、または個人による学力定着の差が大きい傾向が見られ、「量と測定」「数量関係」の領域における指導方法の工夫や各学年の学習内容に対して、つまずきのみられる児童に対する個別指導の工夫等が必要である。また、本年度実施の第5学年の小学校学力調査では、4教科において自校の平均点が県の平均点を上回る結果が見られたが、理科においては、他教科と比較して若干平均点が低く、特に「観察、実験の技能・表現」の領域においての到達度が低い結果がうかがえた。

本校児童の家庭学習の実態については、9月に行ったアンケート調査から、個人差は見られるが、平均して低学年で30分～1時間、中・高学年で1時間～1時間30分の時間、自宅での学習に取り組んでいるという結果が見られた。学習塾に通っている児童はほとんど見られず、学級担

年からの課題，ドリル学習等の自主的学習を中心に取り組んでいる。低学年では保護者が作った問題に，中・高学年では市販の問題集に取り組んでいる状況が見られ，児童の家庭学習に関心をもって目を通して保護者も多かった。ただ，家庭での読書の取組という点においては，時間の確保が難しいという実態が見受けられた。

3 学力向上に向けた経営方針

- 『基礎学力の向上』 ～自己学習力の育成【学びづくり】～
- (1) 基礎的，基本的学力の定着を図る。
 - (2) 「分かる，できる，楽しい」が実感できる学習づくりを進める。
 - (3) 体験的な学習，問題解決的な学習を重視する。

4 教育課程内の取組

(1) 指導形態，指導方法の工夫改善

本年度は，まず，低・中学年の算数科の一部単元において，学級担任と教頭による授業に取り組むことにした。1学期は，第2学年の「数と計算」領域を中心に，TT（ティーム・ティーチング）授業を行った。計算方法の理解が不十分な児童に対する個別指導を教頭が行い，「1000 までの数」の単元においては，習熟度別に2つのグループに分けて，学級担任と教頭による少人数授業を行った。

また2学期は，学力検査（NRT）の結果を受けて，「量と測定」領域の授業における TT 授業に取り組んでいきたいと考えている。合わせて，第5学年の学力調査の結果を受けて，第5・6学年における理科の授業でも，学級担任と教頭による TT 授業を展開している。

(2) 「学力向上対策プラン」の策定と基礎・基本の定着をめざす取組

【 学力検査の分析にもとづいた「めきめきタイム」の計画 】

学力検査分析の棒グラフ。国語科「言語事項」の正答率を比較。第5学年（算数）は70.8%、第5学年（国語）は70.2%、第5学年（算数）は70.2%。

(1) 分析

① 特に正答率（達成率）の低かった内容（達成率90%以下）

申請書における内容	小・中・高	内容	達成率
片原名・漢字の読み書き、筆順	漢字の読み、漢字を書く		91～100

② 特に正答率（達成率）の低かった内容（達成率60%以下）

申請書における内容	小・中・高	内容	達成率
漢語・英語を正しく読み取る	英語はどうか		27～53
句読点の使い分け	「。」を付ける箇所		9～27
片原名・漢字の読み書き、筆順	漢字の書き順、右		4.5
	片原名表記、パケツ		5.5

(2) 今後の重点指導の手立て（達成率の低い小問及び全体の達成率が低い申請書を対象）

申請書の内容	指導の手立て
句読点の使い分け	・日記、短評文指導の充実と例文模写の機会を創出（取り入れる）
漢語・英語を正しく読み取る	・各単元の文法指導の工夫と充実を図る。
片原名・漢字の読み書き、筆順	・ 高学年指導の際の「読書き・なぞり書き」などの筆順指導の工夫を行う。
	・ 漢字検定や筆順検定などの効果的な指導を図る。
	・ 漢字検定テストをめきめきタイムの時間にも実施する。
	・ 副読本、副読本の表紙の漢字の指導を工夫する。
	・ 片原名ミニテストをめきめきタイムの時間にも実施する。

めきめきタイム 2学期の取り組み計画

月	日	曜	取り組みの内容
9月	6日	火	2年生までの漢字検定テスト①
9月	8日	木	2年生までの漢字検定テスト② スピーチメモづくり
9月	13日	火	2年生までの漢字検定テスト③
9月	15日	木	2年生までの漢字検定テスト④ スピーチメモづくり
9月	20日	火	2年生までの漢字検定テスト⑤
9月	22日	木	2年生までの漢字検定テスト⑥ スピーチメモづくり
9月	27日	火	「読み」についての復習プリント
9月	29日	木	「読み」についての確認テスト スピーチメモづくり
10月	4日	火	「書き」についての復習プリント
10月	6日	木	「書き」についての確認テスト スピーチメモづくり
10月	11日	火	読書練習帳①
10月	13日	木	読書練習帳② スピーチメモづくり
10月	18日	火	読書練習帳③
10月	20日	木	読書練習帳④ スピーチメモづくり
10月	25日	火	算数文脈問題プリント①
10月	27日	木	算数文脈問題プリント② スピーチメモづくり
11月	1日	火	算数文脈問題プリント③
11月	8日	火	算数文脈問題プリント④ スピーチメモづくり
11月	10日	木	200字テーマ作文①
11月	15日	火	片原名確認テスト スピーチメモづくり
11月	17日	木	200字テーマ作文②
11月	22日	火	片原名確認テスト スピーチメモづくり
11月	24日	木	あまりのあるわり算100問テスト①
11月	29日	火	あまりのあるわり算100問テスト②
12月	1日	木	あまりのあるわり算100問テスト③ スピーチメモづくり
12月	6日	火	あまりのあるわり算100問テスト④
12月	8日	木	3年生2学期までの漢字復習テスト① スピーチメモづくり
12月	13日	火	3年生2学期までの漢字復習テスト②
12月	15日	木	3年生2学期までの漢字復習テスト③
12月	20日	火	3年生2学期までの漢字復習テスト④
12月	22日	木	3年生2学期までの漢字復習テスト⑤
12月	27日	火	2学期の取り組みの振り返り 2年生までの漢字の書き取り、わり算の計算力の定着

日向市内の全小・中学校の取組に沿って，本校でも，5月の学力検査（NRT）分析をもとに，全学年において「学力向上プラン」を策定した。これにもとづき，国語科，算数科の授業の中

で、各領域の重点指導項目やその単元については、具体的な手立てや指導時数の配分の工夫改善を行いながら、達成状況を十分に把握し、習熟のための繰り返しの指導に努めている。また、学期末には、各学年ごとの成果と課題をまとめ、次学期の計画に生かすようにしている。

さらに国語科、算数科の基礎・基本の一層の定着を目指して、毎週火・金曜日の朝 8:10～8:35 までの時間帯を「めきめきタイム」として設定し、学習プリント等を効果的に活用しながら学級の実態に応じた指導を展開している。特に、計画の作成にあたっては、学力検査の結果をもとに、指導の徹底が必要な領域、単元を分析し、取組の充実を図るようにしている。

(3) 読書活動の充実を図る取組

本校においては、

- 読書することの楽しさやおもしろさに気付かせながら、児童の想像力を広げる。
- 読書と学習活動を関連させながら、児童の語彙力、読解力、表現力の向上を図る。
- 読書と身近な体験を結び付けさせながら、児童の生活や社会に対する問題意識を高める。

これらのことをねらいとして、読書活動の積極的な推進を図っている。おもな取組としては、毎週火曜日の 13:05～13:25 を「読書タイム」として設定し児童が読書に浸ることができる時間を確保するとともに、月 2 回、保護者グループによる絵本の読み聞かせ会を実施しながら、児童の読書に対する意欲付けを図っている。

また、読書感想文コンクールへの積極的な参加や全校児童による読書紹介展の実施等により、児童の表現力の向上を目指すとともに、学校図書との連携を図りながら、児童の読書習慣の定着に向けての指導を行っている。



【 読書タイムの取組 】

5 教育課程外の取組

○ 指導力の向上を目指す職員研修の実施

本校では、児童の自己表現力やコミュニケーション能力の育成を研究の柱として、本年度は、国語科を中心に、全学級担任による授業研究会を計画、実施している。

授業研究会においては、教材分析や問題解決的な学習過程の在り方、指導の具体的な手立てや評価の在り方を中心に、指導力の向上を図るための協議を深めながら、普段の授業に生かすことができるように努めている。

また、校外で行われる各種研修会にも積極的に参加している。

段階	学習活動	児童生徒の意識の流れ	学習形態	教師の支援	評価の観点・方法
め	学習問題をつかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題事象に直面させ、問題意識を起す。 ・ 問題及び問題解決への関心と意欲をもつ。 ・ 何を考える(求める・調べる)のか理解する。 ・ 自分が解決を図る問題を整理したり、共通の問題に絞ったりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人(読解) ・ 2人(話し合い) ・ 3人(話し合い) ・ 4人(話し合い) ・ 5人(話し合い) ・ 6人(話し合い) ・ 7人(話し合い) ・ 8人(話し合い) ・ 9人(話し合い) ・ 10人(話し合い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習問題づくりに関わる事象提示の仕方工夫する。 ・ 学習内容に的確に対応して、児童生徒の興味・関心・意欲を高めるような学習問題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動に対して意欲をもっているか。 【観察】 ○ 学習問題の意味・内容が分かっているか。 【観察、発表等】
	解決の見通しを立てる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の生活体験及び知識、既習の学習活動を想起し、学習問題に対する予想(結果の見通し)を立てる。 ・ 問題解決のために必要な資料や方法、活動の手順等を見通しを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【結果の手配】 ・ 1人(読解) ・ 2人(話し合い) ・ 3人(話し合い) ・ 4人(話し合い) ・ 5人(話し合い) ・ 6人(話し合い) ・ 7人(話し合い) ・ 8人(話し合い) ・ 9人(話し合い) ・ 10人(話し合い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の学習内容や、児童生徒の生活体験等を十分に活用し、見通しをもたせる。 ・ 解決活動の計画やその方法をしっかりと理解させ、主体的な取組を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 結果を予想することができているか。 【観察・グループ討】 ○ 解決方法を自分なりに見つけているか。 【観察・発表等】
自力で解決する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な資料を選定・収集する。 ・ 自分の体験・知識・資料等をもとにして、自分の考えた方法で問題解決を図る。 ・ 分かったことや、新しく問題となったことを整理していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 【資料の手配】 ・ 1人(読解) ・ 2人(話し合い) ・ 3人(話し合い) ・ 4人(話し合い) ・ 5人(話し合い) ・ 6人(話し合い) ・ 7人(話し合い) ・ 8人(話し合い) ・ 9人(話し合い) ・ 10人(話し合い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導やヒントカード活用を回り、個に応じた支援を充実させる。 ・ 多様な考えや、児童生徒個々の考えのよさを引き出すよう支援する。 ・ 次回の共同解決に向けて、自分の考えや方法を整理させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に問題解決に取り組んでいるか。 【観察】 ○ 自分なりの考えや方法で解決しようとしているか。 【観察・発表等】 	

【 本校における問題解決的な学習過程 】

6 保護者・家庭、地域との連携

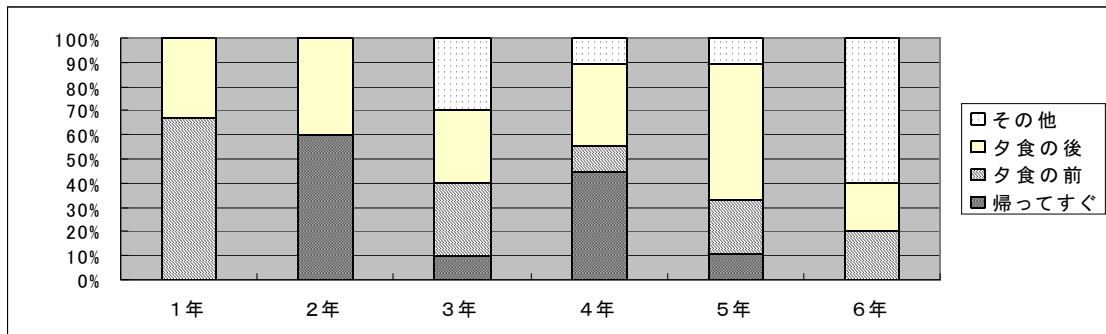
(1) 家庭学習の充実に向けての取組

本校では、児童の家庭学習の充実を目指して、「家庭学習の手引き」を低学年用、中・高学年用の2種類作成している。

これには、各教科における学習の方法を示すとともに、家庭学習を進める場合の留意事項や目安となる時間等を記載している。児童へ指導するとともに、学級懇談や個人面談の際、家庭での学習習慣の定着や内容の充実についての啓発を行っている。



また、本年度は、同じ中学校区の小・中学校と連携を図りながら、「家庭学習・生活に関するアンケート」を全児童・保護者を対象に実施した。アンケートの調査項目としては、「児童の学習時間や学習時間帯」「家庭学習の取組の内容」「テレビやゲームの時間」「読書の時間」等を設定し、回答を集計、考察した結果をまとめた。下記のグラフは、本校の集計結果の一部である。これらの調査結果も踏まえて、より一層の家庭学習の充実を目指して、中学校区の小中連携研究会において、小・中学校の連携を図った取組について協議を行い、具体的な手立てを講じていきたいと考えている。



【 本校児童の家庭における学習時間の実態 】

(2) 保護者個人面談の実施

夏季休業中に全学年全保護者を対象にした保護者個人面談を実施している。学力検査の結果や1学期の評価をもとに、児童一人一人の学力の状況や今後の課題について伝えるとともに、生活指導面も含めて、保護者のニーズに合わせて、学級担任と共通理解を図る相談の時間として有効に活用している。

7 成果と課題（次年度の取組を含む）

- 《成果》
- 個に応じた指導の継続が図られ、基礎・基本が定着してきた。
 - 学び方や表現する力を育成する学習活動が展開され、児童が意欲的に学習する姿が見られた。
- 《課題》
- 個の能力に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を進めるとともに、学習指導過程における指導と評価の一体化を充実させる。

